

ほこどりてよるも御かきにたちしこそちかきまもりのはじめなりけれ

かし原の大宮ごころいかめしくまもりしみちはいまもゆるかす

ご御祭神の御大勳をよませ給うた御言葉を拜するのでありますが、その他大原重朝は

身にまごふ千筋の糸も切りすて、道一筋をまもりましけり

福羽美静は

君が爲國につくして上もなきいさをたてし神その神

高崎正風は

かし原の大宮柱ゆるかぬも此いしつゑのあればなりけり

本居豊頼は

武夫の祖ごのみやは仰くべき御魂鎮めしいを思へは

典侍柳原愛子は

すへらきにさゝげ奉りし御寶に君かまごとはあらはれにけり

第七章 須佐神社

山陰本線の出雲今市驛から南方四里半に大宮線の須佐驛がある。こゝから徒歩にて三十分、即ち飯石郡東須佐村大字宮内に國幣小社須佐神社が御鎮座あらせられます。當社は風土記には當郡官社五所の筆頭に須佐社と記し、式の神名帳には須佐神社と記されてゐるが、應永二十一年の當社の古棟札には十三所御社、永正八年以降の古棟札には十三所大明神、天文二十三年以來の古棟札その他のものには須佐大宮、又當社の古印をはじめ飯石郡圖等には出雲大宮、延寶五年以來の社領證文には須佐明神と見え、明治四年郷村産土神の制定に方つて改めて須佐神社と定められたが、通俗には今も須佐大宮と稱せられて居ります。

その須佐の社名は地名の須佐から來たものと考えべく、當社の御鎮座地はこの須佐の内宮内と呼ばれてゐる所である。市町村制の定まる以前までは宮内村といつた。しかるに當郡には外に掛合にも宮内といふ所があるので、區別するため普通には須佐宮内・掛合宮内と云つて居ります。元來この宮内といふ地名は、古來の名社大社の御鎮座地につけられてゐるやうなれど、しかも神社を中にして山を以つて取廻らした區劃内の土地を意味する言葉らしく、乃ち當社の御鎮座地なる須佐宮内は、四面皆山でかこ